

資料

集団場面での活動後のシェアリングにおける 参加者間の会話の特徴 —コラージュ制作と旅行計画作成との比較—

竹内いつ子*¹ 寺崎正治*¹ 武井祐子*¹ 門田昌子*²

要 約

本研究の目的は、集団でのコラージュ制作後あるいは旅行計画の作成後のシェアリングにおける参加者間の会話の内容を比較し、活動後のシェアリングの特徴を明らかにすることである。44名の大学生及び大学院生をコラージュ制作群（24名）あるいは旅行計画群（20名）のいずれかに割り振り、4人1組で実験を行った。はじめに各自でコラージュ作品ないしは旅行計画を作成し、その後実験者と4人全員でシェアリングを実施した。各群のシェアリングにおける質問やコメントならびにそれに対する応答内容を7つのカテゴリーに分類し、質問内容のカテゴリーごとに質問1件あたりの応答数を求めた。各質問カテゴリーに対する応答数を両群間で比較したところ、コラージュ群では旅行計画群に比して、作品の「内容」に関する質問に対して制作者の「好み」を多く答え、「制作中の体験」に関する質問に対しては、「制作体験」での制作者の主体的な行為を多く答えていた。旅行計画群ではコラージュ群に比して、計画の「内容」に関する質問に対して、計画に関する「内容」の具体的事実を多く答えていた。

1. 序論

集団でのコラージュ制作は、自己理解や他者理解、参加者間のコミュニケーションの促進などを目的として、心理臨床や教育活動などの場面で用いられている^{1,4)}。また、制作活動後にコラージュ作品の内容や制作過程などについて参加者同士で話し合うシェアリングが行われることも多い^{1,3)}。

コラージュ制作の効果については、制作者の創造力や自己表現が促進されることが報告されており^{5,6)}、それらを検証するための研究も行われている。青木⁷⁾は、大学生を対象に集団場面でのコラージュ制作を行った結果、参加者の不安や緊張、怒り、敵意、混乱などの気分が低減され、シェアリングを併用することでその効果が持続したと述べている。また活動後のシェアリングでは、作品に関する言語的説明が促され、他者への共感や興味が喚起され、参加者間のコミュニケーションが促進され、それを通して自己の理解につながる可能性^{1,3,7,8)}が報告されている。

これらの研究結果は、集団場面でのコラージュ制作とシェアリングでの参加者の体験についての臨床現場での知見を裏付けるものである。しかしコラージュ制作以外の活動との比較が行われておらず、コラージュ制作特有のものなのか、集団場面での活動がもたらすものなのかが不明瞭である。またシェアリング自体の効果については検証されていないものが多く、シェアリングの有無に関する対照群が設定されていないため、活動での変化が持続しているのか、シェアリング自体がもたらす変化なのかが判じ難い。更に、コラージュ制作とシェアリングの効果について、参加者による事後アンケートの内容から検討されているものが多く、シェアリング時の実際の発言内容を扱った研究は見られず、参加者間のコミュニケーションについて十分に明らかになっていないと考える。

竹内ら¹⁰⁾は、コラージュ制作と旅行計画の作成という2つの活動の種類とシェアリングの有無に関し

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 臨床心理学科

*2 倉敷市立短期大学 保育学科

(連絡先) 竹内いつ子 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学

E-mail : takeuchi125@mw.kawasaki-m.ac.jp

て、参加者の気分変化を比較した。旅行計画の作成は制作過程が雑誌などから制作者の意図や好みに基づいて情報や対象物を選択し、構成するという点でコラージュ制作と類似していると判断された。その結果、どちらの活動も活動後にシェアリングを行うことで、倦怠気分が低減し、親和や活動的快の気分が増加するというポジティブな気分変化をもたらすことが明らかになった。加えて、シェアリングにおける参加者間の質問と感想および相づちの数を比較したところ、旅行計画群に比してコラージュ制作群の方が、参加者間の質問や感想および相づちの数が多く、旅行計画の作成に比してコラージュ制作は参加者間のコミュニケーションを促進する可能性が示された。この研究結果から、コラージュ制作と旅行計画の作成はいずれもシェアリングを併用することで同様の気分状態の変化がもたらされるが、シェアリングでの参加者間のコミュニケーションはコラージュ制作後の方が促進される可能性が明らかになった。しかし、実際にコラージュ制作後と旅行計画作成後のシェアリングにおける参加者の発言内容にどのような違いがあるのかは明らかになっていない。シェアリングは参加者同士のコミュニケーションで成り立っており、活動の種類による参加者間の会話内容の違いについて検証する必要があると考える。

したがって本研究の目的は、集団場面でのコラージュ制作あるいは旅行計画作成という活動後のシェアリングにおける参加者間の会話の内容を明らかにすることである。さらに、2つの活動を比較することで、それぞれのシェアリングの特徴について検証する。

2. 方法

2.1 実験期間と実験場所

2014年7月-10月に、大学内の相談実習室及び講義室にて実験を行なった。シェアリング時の実験参加者および実験者の位置を図1に示した。ABCDは4名の実験参加者の位置を示している。

2.2 実験参加者

実験参加者は大学生及び大学院生44名(男性10名, 女性34名, 平均年齢20.5歳, 標準偏差は1.68)であった。参加者は無作為にコラージュ制作群か旅行計画作成群のいずれかの群に割り当てられた。さらに4人1組のグループを構成し、グループ単位でコラージュ制作ないしは旅行計画の作成とシェアリングを行った。

各群の構成はコラージュ群24名(男性6名, 女性18名), 旅行計画群20名(男性4名, 女性16名)であった。

2.3 材料

2.3.1 コラージュ制作

コラージュ群の参加者は、実験者が用意した雑誌(人物や動物、風景などの様々な写真と文字が含まれているもの;合計32冊)と道具(はさみ, カッター, スティックのり, ハツ切画用紙, 鉛筆, 消しゴム)を用いた。

2.3.2 旅行計画の作成

旅行計画群の実験参加者は、実験者が用意した旅行本(国内と海外の各地が記載されたもの;合計10冊)と道具(記入用紙, 付箋, 鉛筆, 消しゴム)を用いた。

2.4 手続き

実験参加者は実験室に入室すると、実験者からの

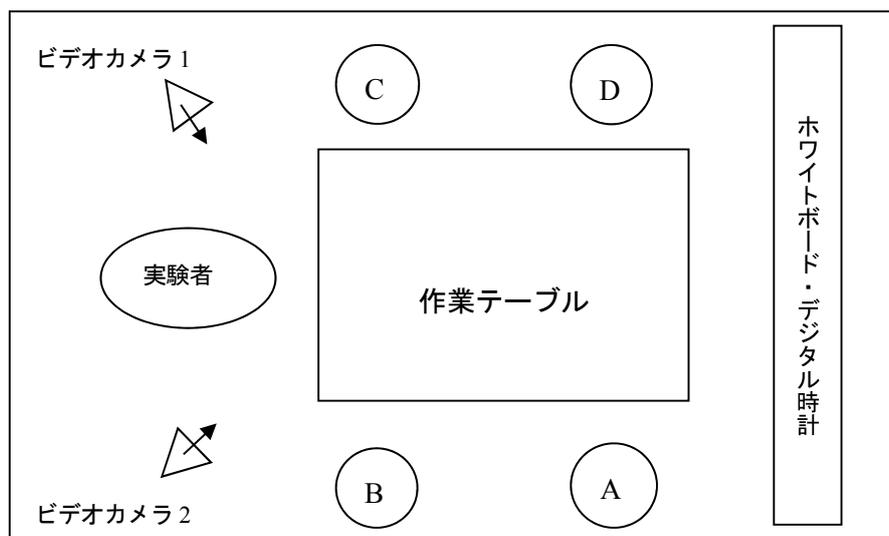


図1 シェアリング時の実験参加者および実験者の位置

促しで室内の A ~ D の場所 (図1) に自由に着席した。始めに実験者からコラージュ制作あるいは旅行計画の作成という活動の内容とその後シェアリングを実施することを参加者全員に説明した。その後、実験者が参加者各人に道具を配布し、35分間で参加者各自が1つずつコラージュ作品の制作ないしは旅行計画の作成を行った。初めてコラージュ制作を行う場合でも取り組みやすいことを考慮し、コラージュ群では、コラージュ制作道具を用いて「自分の好きなもの、気になるもの」というテーマでコラージュを制作するように教示し、活動終了時間までに作品のタイトルを決め、画用紙の裏面に記入するよう教示した。旅行計画群では、旅行計画道具を用いて「自分が行ってみたいと思う旅行計画」を作成し、活動終了時間までに旅行のテーマを決めて用紙に記入するよう教示した。タイムキーパーと実験中の教示はすべて実験者が行った。

その後のシェアリングでは、始めに実験者から「Aさんから順番に、作成したコラージュ作品(ないしは旅行計画)についてお話ししていただきます。他の皆さんは途中で何か聞きたいことや感想などがあれば自由に発言してください。その際、尋ねられても答えたくないことについては話さなくて構いません。また他の方に対して評価や批判をするような内容は話さないようにしてください。」と教示した。この内容は、青木⁷⁸⁾や東¹¹⁾の導入法を参考にした。続いて、「作品(あるいは計画)のタイトル(あるいはテーマ)を教えてください」と教示し、参加者が一人ずつ順番にコラージュ作品や旅行計画について説明した。実験者からいくつか質問をしながらシェアリングを進行し、途中で他の参加者に「質問や感想のある方はいらっしゃいますか?」と尋ね、他の参加者が質問や感想を述べ、それに対する応答が行われた。一人分のコラージュ作品ないしは旅行計画につき、3分程度でシェアリングを実施した。シェアリングの終了後にコラージュ作品あるいは旅行計画の用紙を回収し、最後に実験の目的についてディブリーフィングを行い、実験を終了した。

2.5 シェアリングでの発言内容の記録

2台のデジタルビデオカメラを用いて、入室から退室までの参加者の様子を撮影した。その映像と音声のデータをもとに、実験者がシェアリング時における参加者の発言内容を逐語で Excel に記録した。

2.6 データ分析方法

シェアリング時の参加者及び実験者の発言の逐語記録をもとに、発言内容を以下の手順でカテゴリに分類した。参加者及び実験者からの質問や感想などのコメントを「質問・コメント」、1件の「質問・

コメント」に対する参加者からの応答を「応答」とした。「質問・コメント」は発言者が話し始めてから話し終わるまでを1つの発言とした。「応答」はコラージュ作品や旅行計画についての説明の情報1つごとに区切ったものを発言とした。また、「質問・コメント」に対する相づちやお礼は分類対象から除いた。

- (1) 実験者が単独で「質問・コメント」及び「応答」の全ての発言をその内容に基づきカテゴリに分類した。
- (2) 共同研究者2名と実験者で協議し、「質問・コメント」及び「応答」のそれぞれに7つのカテゴリと分類基準を設定した。
- (3) 実験者による分類の信頼性を検討するために、全体の約10%の発言内容について(2)の協議には加わっていない共同研究者1名が設定された分類基準に基づいて分類を行った。その後、実験者の分類結果と照合し、一致しない部分については協議を行った。最終的にすべての「質問・コメント」及び「応答」の発言がそれぞれ7つのカテゴリのいずれかに分類された。

結果の統計的分析には、統計ソフト IBM SPSS Statistics Version 23を用いた。7つの質問・コメントカテゴリごとの質問1件あたりの応答数において、コラージュ制作と旅行計画の群間で差が認められるかを Mann-Whitney の U 検定を用いて応答カテゴリごとに比較した。

2.7 倫理的配慮

実験参加者には、4名で活動を行うこと、活動の様子をビデオカメラで撮影すること、所要時間は約80分であること、実験で得られたデータは論文作成の為にのみ使用し、論文の中では個人が特定されない形で表記されること、途中で実験への参加を取りやめても不利益にはならないことを事前に説明し、実験参加の同意を得た。またその旨を書面に記録し保管した。データは施錠可能な部屋の施錠できる棚に保管し、第三者や外部に流出することの無いように実験者が管理した。尚、本論文の投稿にあたり、川崎医療福祉大学倫理委員会の承認を受けた(承認番号:17-109)。

3. 結果

全実験参加者のうち、質問紙の配布忘れ等の実験中に手続きに問題のあった者と実験実施時の人数調整の為に実験に参加した者のデータを除き、39名(コラージュ群19名、旅行計画群20名)のシェアリング時の発言数と内容を分析対象とした。

3.1 シェアリング時の質問や感想等の内容およびその応答内容の分類

質問や感想などのコメントは、「Q1作品や計画の意図に関する質問」(以下「Q1意図」とする)、「Q2具体的内容に関する質問」(以下「Q2内容」とする)、「Q3好みに関する質問」(以下「Q3好み」とする)、「Q4制作中の体験に関する質問」(以下「Q4制作中の体

験」とする)、「Q5個人的体験や知識に関する質問」(以下「Q5個人的体験」とする)、「Q6感想」,「Q7質問者の経験・知識・考えのコメント」(以下「Q7知識等コメント」とする)という7つのカテゴリー(以下「質問・コメントカテゴリー」とする)のいずれかに分類した。カテゴリーの内容と分類の基準を表1に示した。

表1 質問・コメントカテゴリーと分類基準

カテゴリー名	分類基準
Q1 作品や計画の意図に関する質問	作品の表現や計画の意図について尋ねたもの
Q2 具体的内容に関する質問	作品や計画の具体的な内容を尋ねたもの
Q3 好みに関する質問	制作者の好みについて尋ねたもの
Q4 制作中の体験に関する質問	作品や計画の制作中の体験を尋ねたもの
Q5 個人的体験や知識に関する質問	本活動以外の制作者の個人的な経験や知識について尋ねたもの
Q6 感想	作品や計画に対する質問者自身の感想を述べたもの
Q7 質問者の経験・知識・考えのコメント	質問者の経験, 知識, 考えについて述べたもの

表2 応答カテゴリーと分類基準

カテゴリー名	分類基準
A1 制作の意図に関する説明	作品の表現の意味や計画の意図を説明したもの
A2 作品・計画の内容の説明	作品・計画の内容を具体的に説明したもの
A3 制作中の情緒的体験の説明	作品や計画の制作活動中に生じた思いや考えを述べたもの
A4 制作中の体験の説明	作品や計画の制作活動中の手順や知り得た情報の有無について述べたもの
A5 制作者(知り合い含む)の個人的体験の説明	本実験活動以外で, 制作者自身やその知り合いが過去に体験したことや, 未来の予定を述べたもの
A6 制作者の好みの説明	制作者の好みについて述べたもの (好きなのかをいう質問に「そうです」と答えたものも含む)
A7 制作者の知識・考えの説明	特定の物事に関する制作者の知識や考えを述べたもの (尋ねられて「わからない」と答えたものも含む)

表3 カテゴリーごとの質問やコメントの総数と質問やコメント1件あたりの応答数の平均値と標準偏差

	Q1意図		Q2内容		Q3好み		Q4制作中の体験		Q5個人的体験		Q6感想		Q7知識等コメント		
	コラージュ	旅行	コラージュ	旅行	コラージュ	旅行	コラージュ	旅行	コラージュ	旅行	コラージュ	旅行	コラージュ	旅行	
質問などの総数	16	16	48	44	20	5	39	37	0	1	10	5	0	4	
応答 カテ ゴリ	A1 意図	0.77 (1.03)	0.50 (0.65)	0.63 (0.64)	1.08 (1.01)	0.10 (0.19)	0.05 (0.22)	0.32 (0.47)	0.18 (0.29)	0 (0)	0 (0)	0.05 (0.22)	0.05 (0.22)	0 (0)	0.03 (0.11)
	A2 内容	0.25 (0.52)	0.40 (0.64)	0.62 (0.67)	4.24 (2.50)	0.32 (0.46)	0.15 (0.48)	0.80 (0.59)	0.81 (0.80)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.04 (0.16)
	A3 情緒体験	0.20 (1.43)	0.23 (0.40)	0.36 (0.69)	0.18 (0.40)	0.39 (0.98)	0.30 (0.64)	0.95 (0.68)	0.74 (0.65)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	A4 制作体験	0.68 (1.16)	0.28 (0.70)	0.62 (0.77)	0.41 (0.80)	0.13 (0.45)	0.10 (0.44)	1.08 (0.86)	0.47 (0.68)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.05 (0.22)	0 (0)	0.05 (0.22)
	A5 個人的体験	0.39 (1.18)	0.48 (0.97)	0.14 (0.26)	0.22 (0.66)	0.09 (0.26)	0 (0)	0 (0)	0.07 (0.16)	0 (0)	0.40 (1.74)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	A6 好み	0.12 (0.31)	0.08 (0.24)	0.67 (0.57)	0.08 (0.26)	0.54 (0.71)	0.05 (0.22)	0.08 (0.18)	0.03 (0.11)	0 (0)	0 (0)	0.05 (0.22)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	A7 知識・考え	0.18 (0.44)	0.65 (1.77)	0.14 (0.27)	1.03 (2.64)	0.11 (0.26)	0.15 (0.65)	0.09 (0.24)	0.19 (0.33)	0 (0)	0.05 (0.22)	0.08 (0.24)	0 (0)	0 (0)	0.20 (0.68)

注：() 内は標準偏差を示す。表中の「0」は、いずれかの応答カテゴリーに該当する応答がなかったことを示す。

質問や感想等のコメントに対する応答の内容については、「A1制作の意図に関する説明」(以下、「A1意図」とする)、「A2作品・計画の内容の説明」(以下、「A2内容」とする)、「A3制作中の情緒的体験の説明」(以下、「A3情緒体験」とする)、「A4制作中の体験の説明」(以下「A4制作体験」とする)、「A5制作者(知り合い含む)の個人的体験の説明」(以下、「A5個人体験」とする)、「A6制作者の好みの説明」(以下、「A6好み」とする)、「A7制作者の知識・考えの説明」(以下、「A7知識・考え」とする)の7つのカテゴリーのいずれかに分類(以下、「応答カテゴリー」とする)した。カテゴリーの内容と分類の基準を表2に示した。

3.2 シェアリング時の質問に対する応答内容数の群間比較

7つの質問・コメントカテゴリーのいずれかに分類された質問に対する応答数を応答カテゴリー別に集計し、質問・コメント数で除すことにより、質問・コメント1件あたりの応答数を算出した。群ごとにその平均値と標準偏差値を示した(表3)。

Mann-WhitneyのU検定の結果、質問1件あたりの応答数の平均値に有意差が認められたのは「Q2内容」、「Q4制作中の体験」の質問・応答カテゴリーのみであった。

「Q2内容」のカテゴリーに分類された質問1件あたりの応答数の平均値と標準偏差を応答カテゴリー別に示した(図2)。応答数の群間比較の結果、「A2内容」および「A6好み」の応答カテゴリーにおいて有意差が認められた(A2内容; $U=11.50$, $W=201.50$, $Z=-5.04$, $p<.001$, A6好み; $U=70.00$,

$W=280.00$, $Z=-3.79$, $p<.001$)。その他の応答カテゴリーについては両群間で有意な差は認められなかった。このことは質問者からコラージュ作品や旅行計画の「Q2内容」を問われた際に、コラージュ制作群は旅行計画群に比して「A6好み」(「ペンギンが好きで」など)を多く語っていたことを示している。また旅行計画群では、コラージュ制作群に比して、計画の具体的な「A2内容」(「2泊3日です」など)をより多く語っていたことを示している。

「Q4制作中の体験」のカテゴリーに分類された質問1件あたりの応答数の平均値と標準偏差を応答カテゴリー別に示した(図3)。応答数の群間比較の結果、「A4制作体験」の応答カテゴリーにおいて有意差が認められた(A4制作中体験; $U=108.00$, $W=318.00$, $Z=-2.38$, $p<.05$)。その他の応答カテゴリーについては両群間で有意な差は認められなかった。このことはコラージュ作品や旅行計画の「Q4制作中の体験」を問われた際に、コラージュ群は旅行計画群に比して「A4制作体験」(「見つけて貼りました」など)を多く語っていたことを示している。

「Q1意図」、「Q3好み」、「Q5個人的体験」、「Q6感想」及び「Q7知識等コメント」のカテゴリーに分類された質問1件あたりの応答数については両群間で有意な差は認められなかった。

4. 考察

本研究の目的は、集団場面でのコラージュ制作あるいは旅行計画作成という活動の後のシェアリングにおける会話の内容を明らかにすることである。さらに、2つの活動を比較することで、それぞれの活動とシェアリングの特徴についても検討する。

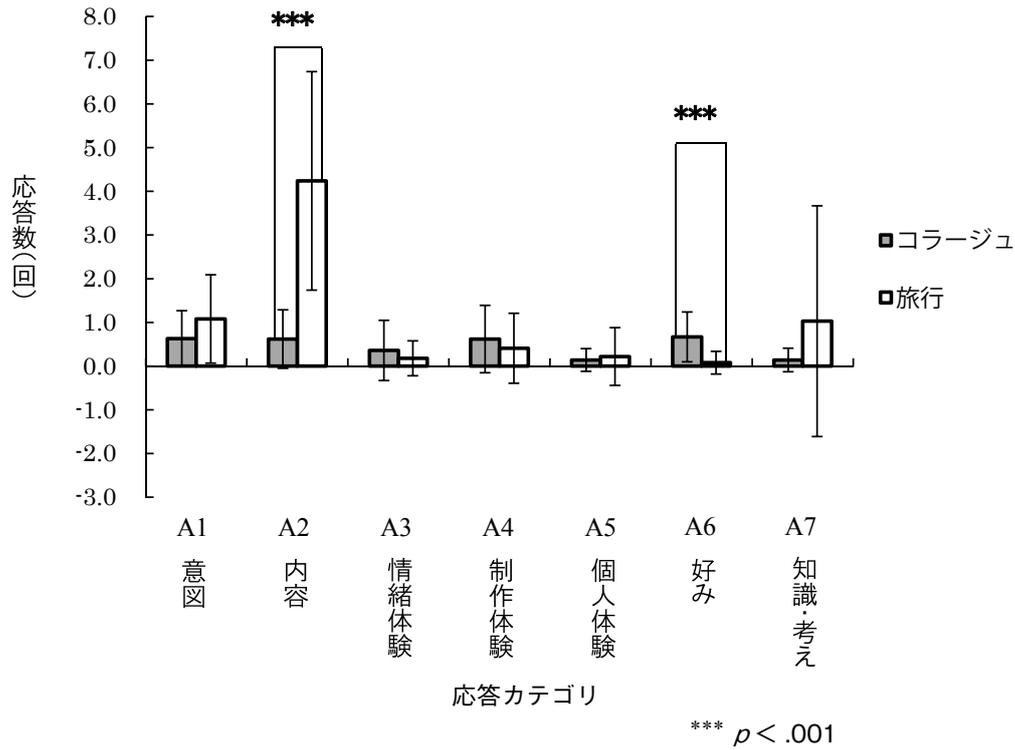


図2 「Q2 内容」の質問1件あたりの応答数とカテゴリー

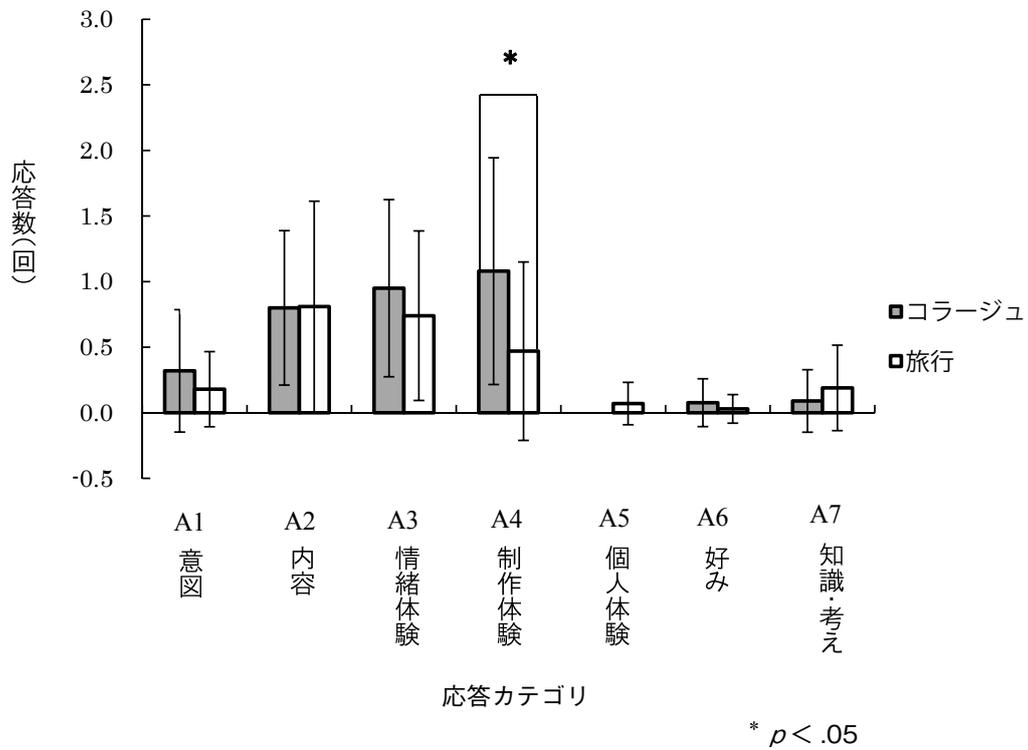


図3 「Q4 制作中の体験」の質問1件あたりの応答数とカテゴリー

シェアリング時の質問や感想等のコメントと質問1件あたりの応答内容と応答数から、コラージュ制

作後と旅行計画作成後では、質問に対する応答に異なる部分が認められた。

コラージュ制作後では旅行計画作成後に比して、「制作中の体験」を尋ねられた場合に、制作活動時に行ったコラージュ作品を作成した手順や写真などの選択の様子、作品構成の事実などが語られやすくなると考えられる。コラージュ制作はその制作過程での写真や文字などの発見から制作者のイメージや創造力が喚起される⁵⁹⁾と考えられており、制作の過程で制作者の意にかなう写真や文字などの探索や発見、選択などの行為は、コラージュ作品のテーマや内容を方向付ける可能性も含んだものだと推測できる。例えば、1つの写真や文字の選択という行為が、更なる写真や文字の探索に繋がることや、作品のテーマを決定づけるものにもなり得る。制作中の体験を尋ねられたことでその一連の過程が想起され、応答数の多さに反映した可能性がある。

加えて、コラージュ制作後では作品の「内容」を尋ねられた際に、旅行計画作成後に比して制作者の「好み」を多く語っていた。本研究では予め実験者が指定した「私の好きなもの・気になるもの」というテーマで参加者がコラージュ作品を制作していたため、自然と制作者の「好み」に関する発言が増えたことも考えられるが、有意な差ではないものの、コラージュ群は旅行計画群に比して、制作中に「いいなあと思った」「どうやろうかと困った」などの「情緒的体験」も比較的多く語っていた。これらのことから、コラージュ制作の過程は制作者の好みや意図に関する写真や文字などの発見や選択があり、そこには好ましさや感動、作品構成をいかに達成するかという悩みなどの情緒的体験を伴うものである可能性が窺える。これらのことから、コラージュ制作後のシェアリングでは、その場での制作活動の内容をはじめ、その場での情緒的体験や、制作者の嗜好などのより主観的な話題が共有されやすい特徴をもつ可能性が考えられる。コラージュ制作後のシェアリングでは、制作時の体験や作品そのものを通して、制作者自身の心的状態への気づきや連想を得て、言語化することで、他者との違いを発見することや、自己理解が深まると考えられている^{2,3,7,9)}。本研究の結果から、集団場面でのコラージュ制作後のシェアリングにて制作者がその場での制作体験や情緒、個人の好みなどを言語化し、他者の作品内容や制作中の体験に関する説明を聞くなかで、自己についての思考や他者との比較などが体験され得ると考えられる。

一方、旅行計画作成後では、計画の「内容」を尋ねられた際に、コラージュ制作後に比して、計画の具体的な「内容」の説明が顕著であった。旅行計画の作成は、計画の内容は文面のみで作成され、シ

アリングでは口頭で他の参加者に計画内容が説明された。コラージュ制作後では、コラージュ作品を他の参加者に見せながら内容の説明を行ったため、旅行計画作成後の方が、言葉での説明量が多くなったことが推察される。また、有意な差ではないものの、計画の「意図」に関する質問に対して、作成者自身の「個人的体験」や「知識や考え」を話し、計画の「内容」や「好み」を尋ねられた際にも、「知識・考え」を多く話す傾向が窺えた。旅行計画の作成において、それまでの旅行の経験や、旅先に関する知識や考えを参考にすることが多く、それらが計画の意図や内容と併せて言語化された可能性が考えられる。本研究では、予め実験者が指定した「自分が行きたいと思う旅行計画」を作成するように促していた。つまり、特定の場所に旅行に行きたいという計画の意図やそこで何をするかという作成者の嗜好が計画に反映されたと推測される。そのような計画の内容や意図、作成者の好みを話すなかで、併せて旅先に関する知識や考えが言語化されたのではないかと考える。これらのことから、旅行計画の作成後のシェアリングでは、より客観的な事実や制作者自身の個人的な体験や知識が共有されやすい可能性がある。

以上のように、集団場面でのコラージュ制作後あるいは旅行計画の作成後のシェアリングでの会話において、作品や計画の「内容」や「制作中の体験」を尋ねられた場合の応答に関して、コラージュと旅行計画とでは、応答に違いが認められた。しかし、作品や計画の「意図」や制作者の「好み」に関する質問への応答や、制作の「意図」や制作中の「情緒的体験」についての応答数については顕著な差は認められなかった。このことからどちらの活動後においても制作の意図や活動で体験された情緒については、作品や計画の内容や意図、制作体験に関する質問への応答として、一定数発言される可能性がある。またコラージュ制作や旅行計画の作成のように制作者の意図や好みを反映するような活動後のシェアリングにおいて、作品や計画の意図や制作者の好みを尋ねることで、制作者の意図や制作中の情緒的体験に関する発言を促進する可能性があると考えられる。

本研究では、コラージュ制作と旅行計画の作成という2つの活動後のシェアリングにおいて、同様の質問に対する応答内容が異なる傾向であることが示された。しかし先行研究で報告されている参加者間でのコミュニケーションの促進や、自他の理解との関連は検証されていない。今後は、参加者同士の共感の度合いやシェアリング自体を参加者がどのように体験したのかについて更なる検証が必要である。

謝 辞

本研究にあたり、実験にご協力頂きました参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

注

本研究は、竹内ら¹⁰⁾で得られたデータのうち、シェアリング時の発言記録のデータを用いて、会話内容の分析を行ったものである。

文 献

- 1) 青木智子：職業訓練校における自己開発を目的としたコラージュ制作—集団集団法・集団個人法—。産業カウンセリング研究, 4, 17-26, 2000.
- 2) 吉田輝美：コミュニケーションツールとしてのコラージュ法の検討—芸術療法を用いたコミュニケーションの広がりについて—。仙台白百合女子大学紀要, 14, 115-129, 2009.
- 3) 鳥丸佐知子：コミュニケーションワーク活性化剤としてのコラージュの有効性について。京都文教短期大学研究紀要, 46, 109-119, 2007.
- 4) 今田雄三：臨床心理士養成課程におけるコラージュ療法体験授業の展開—施行法・技法の選択・検討法などの工夫を中心に—。鳴門教育大学研究紀要, 25, 218-230, 2010.
- 5) 杉浦京子, 鈴木康明, 金丸隆太：集団コラージュ制作の効果—社会心理学的, 臨床心理学的考察—。日本医科大学基礎科学紀要, 23, 1-15, 1997.
- 6) 白石裕子, 則包和也：精神臨床看護論演習におけるコラージュ療法の活用—学生の自己理解・他者理解の促進をめざして—。香川県立医療短期大学紀要, 3, 141-147, 2001.
- 7) 青木智子：グループにおけるコラージュ技法導入の試み—コラージュエクササイズを用いたグループエンカウンターと気分変容についての検討—。日本芸術療法学会誌, 32(2), 26-33, 2002.
- 8) 青木智子：社内研修におけるグループへのコラージュ療法導入の試み。産業カウンセリング研究, 6(1), 11-16, 2003.
- 9) 佐藤仁美：看護教育におけるコラージュ活用の試み—自己理解・他者理解・相互理解—。心理臨床学研究, 21(2), 167-177, 2003.
- 10) 竹内いつ子, 寺崎正治, 武井祐子, 門田昌子：集団でのコラージュ制作とシェアリングにおける参加者の気分変化と親和行動。川崎医療福祉学会誌, 25(1), 75-83, 2015.
- 11) 東知幸：コラージュを組み合わせた人生グラフテストを用いたグループワークがもたらす心理的效果。心理臨床学研究, 31(4), 541-551, 2013.

(平成30年7月6日受理)

Characteristics of Conversations in Sharings after Group Activities: Comparing Collage Execution with Trip Planning

Itsuko TAKEUCHI, Masaharu TERASAKI, Yuko TAKEI and Masako KADOTA

(Accepted Jul. 6, 2018)

Key words : collage, sharing, group activity, verbal communication

Abstract

The purpose of this study is to compare the contents of group conversation among participants in the sharings of (1) collage execution and (2) travel planning, and to clarify the characteristics of sharings after group activities. Forty-four university students or graduate students attended our experiment, and we organized 11 groups, i.e. 5 of collage execution and 6 of travel planning. First, they individually made collage works or travel plans, and later carried out sharing with other members of the group. We classified participant's questions, comments and responses to them in 7 categories, and counted the number of responses per question of the category. As we compared the number of responses per question of each category between these two kinds of activities, collage execution groups told more of their own "preference" in response to "contents" question, responded more actively to the "experiences in their activity" question, and showed more active response for each selection and decision. To the "contents" question, in comparison, travel planning groups showed more remarkable responses to practical events of the travel.

Correspondence to : Itsuko TAKEUCHI Department of Clinical Psychology
Faculty of Health and Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki, 701-0193, Japan
E-mail : takeuchi125@mw.kawasaki-m.ac.jp
(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.28, No.1, 2018 221 – 229)